

「新カリキュラム評価」研修会の実践報告

令和7年8月1日の午後に Office Kyo-Shien 代表の池西静江先生をお招きして「新カリキュラムの評価について」をテーマに講演会を実施しました。会場は今年度担当校である宮城県の学校法人柊檀学園東北福祉看護学校のキャンパスです。参加者は146名で、そのうち会場参加が31名、オンライン参加が113名です。参加者のうち96.5%が会員校、3.5%が非会員校の参加者でした。毎年3～5%は非会員校からの参加者がおり例年通りでした。東北ブロックの会員校41校のうち今回参加した学校は30校(73.1%)でした。今後、会員校の研修参加を10%上げるよう研修開催時期や内容、開催周知の方法など検討したいと思います。また、令和7年度は各県代表校からの呼びかけで東北ブロックでは2校の学校が新規会員校として加入して頂きました。今後も研修会での教育実践力向上や学校運営上の情報交換に成果があがるよう協議会加入への呼びかけを継続してまいります。

研修会の内容報告ですが、池西先生には実践をもとに、卒業生調査結果を踏まえて開発した領域横断カリキュラムの開発プロセスの例や、看護技術力育成のための科目設定、取り組み（ポートフォリオ、コッソノート、技術の教員評価・ピア評価など）を例にとりながら、評価指標などを具体的に説明頂きました。また、総括的評価として、AP、DP、CPの連動性、アセスメントポリシーの明文化、DPの項目ごとの評価の観点、収集データを明確にし、カリキュラムルーブリックを作成すること、いつ、どのような方法で、誰が評価を行うのかアセスメント計画を立てることなど実践例をもとにご紹介頂きました。アセスメント計画に基づいてデータを収集後、月1回のカリキュラム会議などを通して評価作業を行い、改善につなげていく一連の流れが理解できたので、実践をととした具体的な内容が今後の教育活動の参考になり、質疑も活発でした。アンケート結果でも、回収率は26%と、初めての「manaable」の使い方がわかりづらかったことと、それを踏まえて東北ブロック事務局からのアナウンス不足もあったせいと低い回収率ではありましたが、回答者全員が今後の教育活動に「非常に役に立つ」「役に立つ」と回答していました。今後の研修希望は、「講演の中で評価内容作成中とあった項目について続編の研修を実施してほしい」「近隣の学校で協力しあいながら進めていけるとよい」「アセスメント計画が参考になった」などの意見があり、あまり他校と共同参加する機会も少ないので、課題についてグループディスカッションを行うなどの手法も取り入れていきたいと思っています。

今回は全国ブロックの中で初めて「manaable」を使用しましたので、申し込み操作や、研修費の支払い、非会員の申し込みなど多くの場面で日本看護学校協議会事務局にお世話になり開催・終了することができました。参加者の約7割が「使いやすい」「やや使いやすい」と回答し、受講操作が簡単、予約方法がわかりやすい、画面をクリックするだけでZOOMが開けるなどの意見があった一方で、3割が「やや使いにくい」と回答し、資料の場所がつけられなかった、個人アカウントを登録する方法がわからない、看護協会で使用しているアカウントと混同したなどの意見がありました。今後、会員が「manaable」操作に慣れるまでは、丁寧に周知・説明していく必要があると感じました。